

一

あとの問いに答えなさい。

問一

次の①～⑤の文には誤った漢字が一字使用されている。例にならって誤った漢字を抜き出して、正しい漢字に直しなさい。

例 私たちは以頼人のために、仕事をしている。誤 以 ↓ 正 依

- ① 夏休みの果題のために、野菜を育てて収穫する計画を立てる。
- ② 清潔な環境の教室にしたいので、掃事を丁寧に行っています。
- ③ 目標を達成するためにも、自らの退情な性格をなおしたい。
- ④ 今年の海外旅行では、海に望む高層ホテルに宿泊する予定だ。
- ⑤ 有人ロケットの打ち上げに成功したので、会場は勢大ににぎわった。

問二

次の1～4の四字熟語の意味として、最も適切なものをあとのア～キから一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 玉石混淆 ぎしきゆうこう
- 2 呉越同舟 ごえつどうしゅう
- 3 内憂外患 ないゆうがいかん
- 4 大同小異 だいたうしやうい

- ア 内にも外にも心配事がある状態のこと。
- イ 大きな違いが目だって、小さな違いが目立たないこと。
- ウ だいたいと同じであるが、少しの違いがあること。
- エ 他人の悪いところを見て、自分の悪いところをなおすこと。
- オ すばらしいものが集まって、さらに良くなること。
- カ 互いに憎み合う敵同士が一つ所に居合わせること。
- キ 良いものと悪いものが混じりあって存在していること。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈観光化のジレンマ〉

「観光化」は、地域経済にとって新たな稼得^{かとく}の手段となりますが、集積による不利益も発生するので、地域にとってはジレンマでもあります。一例として、^A金沢市のひがし茶屋街のケースを挙げます。金沢市の東山はお茶屋街、すなわち遊郭^{ゆうかく}が残り、伝統がいまに生きる奥ゆかしい雰囲気をもった一角でした。

① 伝統的建造物の町家や長屋に、現代的なライフスタイルに応じてリノベーション(改造)やコンバージョン(用途²②)を施し、カフェや小物店などに活用する再生事業が、各地でおこなわれています。まちなみの「文化的価値」を利用することで、事業者は集客力・宣伝力などの経済的メリットを享受することができます。(a)

ひがし茶屋街でも、金沢21世紀美術館が開業したところから、カフェや土産物品店などの用途テンカンの事例が徐々に増えてきましたが、近年になって一気に増加し、観光化が進みました。そこに、新幹線開業にあわせて大々的な地域キャンペーンがおこなわれたことで、東山は金沢のシンボルアイコンとなり、観光客が大挙して押しかけることになったのです。観光客数が増えれば必然的に店の収益率はあがります。その一方で地価も高騰^{こうとう}し、局地的な過剰投資を呼びこむことになりました。(b)

B 「金沢シンドローム」が問いかけること

もともと金沢では、景観条例を一つの基準として、地域コミュニティによる暗黙の「価値の共有」と「自制」とが、伝統文化やまちなみを守る基盤でした。これは、コミュニティの調和を破ってまで自己利益のための事業をやっても、金沢ではうまくいかないという地域的な制度条件が成り立っていたためでしたが、スポット的な資本の流入が、短期的な経済利益に流れやすくする状況をつくりだしました。(c)

東山ひがし地区と市はまちづくり協定を結び、用途の制限、屋外広告物の規制、物品販売の内容などを定めてまちの秩序を守ろうとしてきました。しかし、ルールの範囲内で、個々の事業者(地元の事業者がほとんどですが)が少しずつ従来の秩序を逸脱³する商売に挑戦して、それらが積み重なってきた結果、およそ遊郭の雰囲気とは異質で喧騒^{けんそう}な空間がつくりだされてきました。より懸念されることは、これによって地域コミュニティのなかで対立が生まれ、秩序を保ってきた「I」が崩れることです。「金沢シンドローム」とでも呼ぶべき現象がおきています。

伝統文化やまちなみなどの地域の価値を大事に守ってきたからこそ、それが「Ⅱ」されると人びとから注目され、逆に本来の地域の暮らしに根ざした文化の「根っこ」を掘り崩してしまうかもしれないというパラドクスがあります。文化のビジネス化を持続的に成功させるためには、逆説的ですが、それが行きすぎないための制御の仕組みを一層強化しなければなりません。人をたくさんあつめて観光で儲ける^{もろ}だけが地域おこしではないということです。

へ X へ

観光の世界では、近年ニュー・ツーリズムの一種としてのアーバン・ツーリズムが注目されています。これは、名所・旧跡を見るといった従来型の「観光」ばかりでなく、そのまちの市民の暮らしに接し、地域の人びとと交流するなど、都市のミリオクを体験することを総称した概念、また、その活動のことです。ここで観光資源となるものは、その都市ならではの暮らしの文化です。それが他の地域の人びとからは非日常的な要素として認識されるわけです。

そう考えると、何がひがし茶屋街の文化的な価値だったのでしょうか。それは、歴史的まちなみだけでなく、そのなかにある暮らしの営みと、地域のコミュニティが一体となった地域空間の独特の雰囲気だといえます。短期的な経済利益に流れることで、こうしたまちの雰囲気^④が損なわれるならば、長期的に見て観光も長つづきしなくなるかもしれません。(d)

地域の観光が長つづきするためには、人びとに感動を与える「本物」であることが必要です。「作り物」のストーリーや、他と同じような観光地では、しだいに^⑤アきらまれてくるでしょう。文化を保全するだけでなく、それが本格的にビジネス化して稼得の手段となる段階において、都市の文化の保全と創造のバランスをとっていくためには、観光需要管理などの新たな公共政策の枠組みとともに、地域マネジメント力を高めていかねばなりません。

実際にどのような制度をつくり、文化的価値の質を保ちながら創造していくかといえ、それはたいへん難しいことです。地域の自治体とコミュニティが議論を積み重ねて、経済活動を制御する基準を見出していくしかないでしょう。

(除本理史・佐無田光『きみのまちに未来はあるか?—「根っこ」から地域をつくる—』より)

問一 〓線①～⑤のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 〓線A「金沢市のひがし茶屋街のケース」とあるが、「ひがし茶屋街」では「観光化」により、どのようなメリットとデメリットがあったのか具体的に説明しなさい。

問三 〓線B「『金沢シンдрーム』が問いかけること」とあるが、それは何か、本文中より三十字以上三十五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 本文中

I
・
II

に入るものとして最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

I

ア 共通性

イ 共同性

ウ 共感性

エ 公共性

II

ア 自由化

イ 消費化

ウ 商品化

エ 現代化

問五

——線C「本来の地域の暮らしに根ざした文化」とあるが、それを言いかえた同じ内容の語句を本文中より**十五字**で抜き出して答えな
よう。

問六

本文中へXへには、その後には書かれている文章のタイトルが入る。そのタイトルとして最も適切なものをあとのア、エから一つ選
んで記号で答えなさい。

ア

文化的価値の最大化

イ

持続可能な観光のために

ウ

過剰投資による問題

エ

アーバン・ツーリズムとは

問七

本文中には次の一文が脱落しています。この一文を補うのに最も適切な場所を、本文中の（ a ）（ b ）（ c ）（ d ）から一つ選んで記号で答えなさい。

これは人通りの少なくなった歴史的街区の再生などには有効な手法ですが、安易に進めるとコミュニティが観光空間化してしまう恐れもあります。

問八

本文の内容の説明として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 金沢では観光化が成功し、多くの都道府県が見習うべき取り組みが施され、ひがし茶屋街もそのうちの一つである。
- イ 金沢では自己利益だけを追求するような企業や事業主には、罰則を与える条例が観光業を支えている。
- ウ 観光に必要な物は非日常的な要素であり、従来型の観光では今や集客力はなく不必要だと考えられる。
- エ 観光には文化の保全と創造のバランスが重要であり、そのためには自治体と様々な団体が協力しなければならない。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

けがをして帰ってきてから、どことなく、いつこおばちゃんを取り巻く空気が変わってしまった。

一日じゅう、部屋に引きこもって、外へ出ようとしない。

工藤さんや、仲良しの町内の人がやってきても、店頭に出ようとはしないので、皆、おばちゃんの部屋に上がって、世間話をして帰る、という感じだった。ただし、しゃべるのは工藤さんたちのほうで、おばちゃんは弱々しくうなずいているだけ。

「いつこさん、なんやずつとふさぎ込んでるねえ。どないかして、励ましてあげたいんやけどなあ」

私たち家族も、常連客の人々も、町内の友人たちも、誰もがおばちゃんのことを心配していた。

あまりしゃべらなくなってしまったいつこおばちゃん。

自分の足で歩こうとしなくなってしまった。

毎日食べていた大好きなスイーツも、ほとんど口にしなくなってしまった。

笑顔も弱々しくなってしまった。

ひまわりみたいに、いつだつて前を向いて、元気いっぱい笑っていたおばちゃんだったのに。

どうして、こんなふうになってしまったんだろう……。

「いつこちゃんは、きつと、遠慮してるんやと思う」

お父さんが、ぼつりと言った。

ある夜、おばちゃんが就寝したあと、お父さんとお母さんと私は、二階の両親の部屋で話し合っていた。

このままではいけない。このまま、おばちゃんをいまの状態にしておいたら、本格的に歩けなくなってしまう。

おばちゃんと私たちの距離が、どんどん広がってしまう。

なんとかしなければ……と、お姉ちゃんたち家族を含め、^A私たち全員が思っていた。

遠慮してるんや、というお父さんのひと言。私も同感だった。

引越してきて一年とちょっと。おばちゃんは、いかにも屈託なく過①ぎしているように見せていたけど、ほんとうは心のどこかで遠慮していたんだ。

お世話になって申し訳ない、どんな面倒もかけたくない。——そんな思いを消すことができなかったのだろう。それなのに、旅先でまともやアクシデントを起こしてしまった。申し訳ない気持ちでいつばいのおばちゃんの心は、すっかり縮こまってしまったのだろう。

「遠慮せんかてええのにね。誰も気にしてへんのになあ」

私が言うと、

「そう言われても、なかなかね。私たちの世代は、どうしても遠慮してしまうねん」

お母さんがため息をついた。

お父さんは両腕を組んでじっと考え込んでいたが、顔を上げると、私たちの目を見て言った。

「陽^{ひな}皆^{みな}から、リハビリ施設に通ったほうがえて、言われたんやけどな」

「そういえば、このあいだ、こっちの主治医の先生にも言われてたわ。自分の足は、自分の意志でしか動かせない。だから、しっかりリハビリしてくださいよ、って」

お母さんが、そう応えた。

おばちゃんは、福岡の病院から紹介状をもらって、市内にある整形外科の病院に通っていた。

その医師、富田^{とんだ}林^{ばやし}先生が、かねて患者さんに積極的にリハビリを勧めている、ということ、おばちゃんにも、ぜひやってみてください、少しずつ自立する意識をもつて、ご自分の足でもう一度歩いてください、と勧めてくださった。と。

I、私たちにもアドバイスしてくださった。ご家族のご協力が何より患者さんには必要なんです、と。

私たち家族の気持ちは、もちろん、ひとつだった。

いっこおばちゃんが、もと通り、元氣を取り戻すこと。そしてまた、自分の足で歩けるようになること。

以前と同じように、いきいきと生活できるようになること。

それ以外にはない。

私たちは、おばちゃんに、リハビリを始めるように勧めることにした。

II、おばちゃんは、なかなか首を縦に振ってくれなかった。

「みんなの気持ちはうれしいよ。せやけど、あかん。でけへんわ。年も年やし、ようなるかどうかわからへんのに、がんばったかて、周囲

に迷惑かけるばかりで……」

「そんなことあらへんよ。このまえ、リハビリ施設を見にいつてきたけど、みんな一生懸命がんばって体を動かしてはったよ。きつと、いっここにもできる。あんたが自分でやる気にならんかったら、どうするの」

お母さんが必死に説得をしたが、

Ⅲ

、かちかちに固まってしまったおばちゃんの心は容易には解けなかった。なんとなく、真つ暗なトンネルに入ってしまったって、行くことも戻ることもできず、立ち往生しているような気分になった。

私ですらそんなふうに感じるのだ。当人であるおばちゃんは、さぞや心中複雑に違いない。

——どうしたらいいんだろう。

そんなとき、トンネルの出口をふさいでいた大きな岩を動かしてくれたのが、真君^じだった。

おばちゃんが旅先だけが、の一件があつてから、家の中がばたばたして、気がつくつと、プロポーズの日から一ヶ月以上が経っていた。

真君は、ずっとおばちゃんの容態を気遣ってくれていたのだが、六月に入つたある日、思い切つたように言い出した。

「^Dできるだけ早く、ご両親と、それから、いっこおばさんに、あいさつにいきたいんだ」

いっこおばちゃんがけがをして以来、自分の殻に閉じこもってしまっていることは、折に触れて真君に相談していた。真君は、ほんとう

に真剣に、どうしたらいいか、ずっと一緒に考え続けてくれていた。

結婚の話を持ち出したりしたら、はるちゃん行ってしまうの？ と、おばちゃんがさびしがって、精神的に負担をかけてしまいかねない。

Ⅳ

、報告するのは慎重にしたいと、当初、私たちはふたりともそう思っていた。

けれど、真君は、むしろ結婚の話をバネに、おばちゃんに「トンネル突破」してもらいたい、と考え直したのだった。

「いっこおばさんは、僕らの関係をずっと応援してくれた。僕らが幸せになることを、いやや、言うような人とかがう。きつと見守つてくれるし、自分もがんばろう、思ってくれはるで、僕は信じたい」

もちろん、私もそう信じていた。私たちは、おばちゃんのためにも、一歩、踏み出す決心をした。

(原田マハ 『スイート・ホーム』より)

問一

――線①～③の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① 屈託なく

ア 心配ごとがあり、くよくよしている様子

イ 心配することがなく、くよくよしていない様子

ウ いらいらして、怒っている様子

エ 何かに期待して、わくわくしている様子

② かねて

ア いつも

イ 最近

ウ 以前から

エ これ以降

③ 折に触れて

ア 毎日のようにしつこく

イ 何のまえふりもなく突然

ウ 思い出したときに

エ 機会があるごとに

問二

――線A「私たち全員が思っていた」とあるが、全員が同じ思いを持っていることが分かる内容の一文を抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。(字数には句読点も含めます。)

問三

——線B「すっかり縮こまってしまった」とあるが、なぜ「いっこおばさんの心」は、縮こまってしまったのか、「けが」「面倒」という語句を使って説明しなさい。

問四

空欄

I

Ⅱ

Ⅲ

にあてはまることばを、あとのア～キの中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア なぜなら

イ ところが

ウ むしろ

エ だから

オ あるいは

カ やはり

キ そして

問五

——線C「もと通り、元気を取り戻す」とあるが、「もと通り」とは、いっこおばさんのどのような様子を言っているのか。本文中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問六

——線D「できるだけ早く、ご両親と、それから、いつこおばさんに、あいさつにいききたいんだ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものをあとのA～Eから一つ選んで記号で答えなさい。

- A おばさんのけがでばたばたしてしまった家族に気を遣っていたが、先が見えないのでこれ以上待っても仕方がないと思ったから。
- イ おばさんのけがでばたばたしてしまった家族に気を遣っていたが、ようやく落ち着いたので、今が絶好のタイミングだと思ったから。
- ウ なかなかリハビリを始められないおばさんに、気を遣うのがいやになり、結婚の話と両親へのあいさつを早くすませたいと思ったから。
- E なかなかリハビリを始められないおばさんが、自分達の結婚の話を持ち出すことで明るく前向きな気持ちになれると思ったから。

問七

次のA～Eは、本文について生徒たちが話し合っているものである。本文の解釈として適切なものをあとのA～Eから一つ選んで、記号で答えなさい。

- A Aさん「本文では、方言が使われていることで、関西の雰囲気や人情味をより身近に感じられる描き方になっていると感じました」
- イ Bくん「そうだね。でも、周りの人の過剰な励ましが、本人のプレッシャーとなって動き出せないという場面が多くて、考えさせられたな」
- ウ Cくん「だけど、起きた出来事は僕たちの身近にも起こりそうだね。身近なものをテーマにしてそこに暮らす人々を描こうとしているね」
- E Dさん「家族、近所の人々、婚約相手などたくさん登場人物がいることも特徴じゃないかしら。人間関係がテーマの一つなのかも」

四

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

ある君達^{きんたつ}に、忍びて通ふ人やありけむ。いとうつくしき児^こさへ出で来にければ、「あはれ」とは思ひ聞こえながら、きびしき片っ方やあり

けむ。絶え間^Aがちにてあるほどに、思ひも忘れずいみじう慕^Bふがうつくしう、時々は、ある所に渡しなどするをも、「否^C」なども言はであり

しを、ほど経て立ち寄りたりしかば、いとさびしげにて、珍しくや思ひけむ。かき撫でつつ見居^みたりしを、え立ちとまらぬ事ありて出づるを、

ならひにければ、例^①のいたう慕^①ふがあはれにおぼえて、暫^{しば}し立ちとまりて、「さらば、いざよ^a」とて、かき抱きて出でけるを、いと心苦し

げに見送^Dりて、前なる火取を手まさぐりにして、

こだにかくあくがれ出でば薰^{たき}物のひとりやいと思ひこがれむ^E

と忍びやかにいふを、屏風^{びょうぶ}の後にて聞きて、いみじうあはれにおぼえければ、児もかへして、そのままになむゐられにし。^F

〔堤中納言物語〕より〕

* 君達……姫君

* うつくしき……かわいらしい

* 片っ方……正妻

* ある所……男（忍びて通ふ人）の家

* え立ちとまらぬ事……留まることができない事情

* ならひにければ……男の家に児を連れて行くのが習慣になつてしまつていたので

* 火取……香をたくために用いる香炉

* あくがれ……落ちつかない

* いと思ひこがれむ……ますます二人のことを恋しく思うことだ

問一 本文中＝線①「いたう」、②「こがれむ」を現代かなづかいに直しなさい。

問二 〰線 a、b の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

a さらば、いざよ

ア そうでなければ、いらつしやい
ウ それならば、いらつしやい
イ そうでなければ、来てはいけない
エ それならば、来てはいけない

b こだに

ア 子どもだけでも
イ 子どもしか
ウ 子どもならば
エ 子どもさえ

問三 本文中——線A「絶え間がち」・B「いみじう慕ふ」・D「見送り」の主語として適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度選んではいけません。

ア 君達 イ 忍びて通ふ人 ウ 児 エ 片つ方

問四 ——線C「否」なども言はでありし」とあるが、姫君は何に対して「否」と言わなかったのか、簡潔に説明しなさい。

問五 ——線E「ひとり」について、以下の問いに答えなさい。

① 「ひとり」には二種類の意味が込められているが、このように一つの語に二種類の意味を持たせる和歌の技法の名称として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 序詞じょし イ 擬人法 ウ 枕詞まくらしほ エ 掛詞かけことば

② 「ひとり」にはどのような意味が込められているか、例を参考にしながら二種類の意味となるように、それぞれ「ひとり」に漢字をあてはめて答えなさい。

例 ながめ …… 「長雨」ながめ と 「眺め」

問六

——線F「そのままになむゐられにし」とは、「そのまま姫君の家に留まった」という意味であるが、なぜ男は姫君の家に留まることにしたのか、それを説明したのとして最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 姫君の詠んだ和歌を聞いて、子どもの成長には母親と引き離さず過ごすことが一番だと改めて考えたから。
- イ 姫君の詠んだ和歌を聞いて、自分にとって何よりも大切なのは子どもではなく姫君だと思い直したから。
- ウ 姫君の詠んだ和歌を聞いて、感動して姫君から子どもを引き離さずそこで一緒に過ごしたい気持ちになったから。
- エ 姫君の詠んだ和歌を聞いて、厳しい正妻のことを思い出してしまい、家に帰るのが嫌になってしまったから。

問七

本文は、平安時代後期以降に書かれた『堤中納言物語』の一部です。この作品より以前に書かれた作品として適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 『源氏物語』 イ 『吾輩は猫である』 ウ 『平家物語』 エ 『西鶴諸国ばなし』

問題は以上です。

名前

※印の枠内には記入しないでください。

一			
問二	問一		
1	㊦	㊣	㊠
	誤	誤	誤
2			
	↓	↓	↓
	正	正	正
3			
		㊤	㊢
		誤	誤
↓		↓	
正		正	
4			

8

二					
問六	問五	問四	問三	問二	問一
		I			①
問七		II			②
問八					③
					④
			30		
					⑤
			35		(100)

8

三						
問六	問五	問四	問三	問二	問一	
		I			①	
問七		II				②
		III		5		③
		IV				

8

四				
問六	問五	問四	問三	問一
	①		A	①
				②
問七	②		B	
	と		D	
				問二 a b

8